

南阿蘇村地蔵峠で確認されたカトカラ属の蛾

渡邊竜己^{1,2}¹熊本野生生物研究会, ²熊本市立必由館高等学校*Catocala* confirmed in Minamiaso Village JizotogeRyuki Watanabe^{1,2}¹Kumamoto Wildlife Society, ²Kumamoto Municipal Hitsuyukan Senior High Schoolキーワード：南阿蘇村地蔵峠, カトカラ, *Catocala*, コシロシタバ, ヨシノキシタバ, オオシロシタバ

はじめに

カトカラとは、ヤガ科 *Catocala* 属に属する種の総称である。日本では 32 種 (石塚ほか, 2019), 熊本県では 15 種が確認されている (カトカラ全集; <http://index.catocala.jp/sub1.html>; 2024 年 5 月 5 日確認)。カトカラは美麗種が多く、一般に地味な蛾類の中でも人気のあるグループである。しかし、蝶類に比べると本県における地域ごとの記録は決して多くはない。筆者は 2020 年 7 月～2022 年 7 月にかけて、南阿蘇村地蔵峠で数種のカトカラを得ている。この中には環境省レッドリスト (<https://ikilog.biodic.go.jp/Rdb/booklist>; 2024 年 2 月 28 日確認) や熊本県レッドデータブック (熊本県希少野生動植物検討委員会 2019) に記載されている種や、熊本県では生息情報の少ない種も含まれているため、記録として報告する。

調査地

調査地点は熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陰地蔵峠 (Kumamoto-ken. Aso-gun, Minamiaso-mura, Kain, Jizo-toge) である。調査地点はブナ *Fagus crenata* やミズナラ *Quercus crispula* 等が自生する落葉広葉樹林である。

方法

調査は灯火採集にて行った。日没から 3～4 時間程度、カーテン法により調査を行った。機材は発電機 (HONDA EX300 Hippo) を使用し、160W のバラストレス水銀灯、20W のブラックライト、20W の誘蛾灯等を用いて行った。なお、学名及び配列は九州大学大学院農学研究院昆虫学教室の日本産昆虫学名和名辞書 (DJI; <http://konchudb.agr.agr.kyushu-u.ac.jp/dji/index-j.html>; 2024 年 2 月 28 日確認) に従った。

結果

2020 年～2022 年にかけて、夏季に計 7 回の調査を行い、8 種 30 頭のカトカラが採集された。確認種の一覧は表 1 に示す。各種の確認状況は以下に述べる。種名の後に環境省レッドリスト 2020 及びレッドデータブックくまもと 2019 で指定されたランクを明記した。

コシロシタバ *Catocala actaea*

環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT), 熊本県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)

1♂, 19. VIII. 2020, 筆者採集 (図 2-A)。

本州から九州まで分布し、食樹はブナ科のクヌギ



図 1 調査地。地蔵峠 (●)。熊本県の白地図 (白地図専門店 <https://www.freemap.jp/item/kumamoto/kumamoto.html>) を改変。

表1 確認種一覧.

種名	学名	環境省RL2020	熊本県RDB2019
コシロシタバ	<i>Catocala actaea</i>	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧(NT)
ヨシノキシタバ	<i>Catocala connexa</i>		
エゾシロシタバ	<i>Catocala dissimilis</i>		
アミメキシタバ	<i>Catocala hyperconnexa</i>		
ジョナスキシタバ	<i>Catocala jonasii</i>		
オオシロシタバ	<i>Catocala lara</i>		
ゴマシオキシタバ	<i>Catocala nubila</i>		
キシタバ	<i>Catocala patala</i>		

Quercus acutissima などである(石塚, 2011). 熊本県では県北地域, 県央地域で確認されている.

食樹のクヌギがシイタケの原木として利用されるため, ある程度のクヌギ林になると伐採されて, 生息地が消失する. そのため生息数が減少している(熊本県希少野生動物植物検討委員会, 2019).

ヨシノキシタバ *Catocala connexa*

1♀, 7. VIII. 2020, 筆者採集(図2-B).

北海道から九州まで分布し, 食樹はブナ科のブナである. 一般に生息数は少ない(石塚, 2011).

エゾシロシタバ *Catocala dissimilis*

1♂1♀, 25. VII. 2020, 2♀, 1. VIII. 2020, 3♂3♀, 7. VIII. 2020, 1♂2♀, 10. VIII. 2021, 筆者採集(図2-C).

北海道から九州まで分布し, 食樹はブナ科のミズナラ, カシワ *Quercus dentata* などである(石塚, 2011).

アミメキシタバ *Catocala hyperconnexa*

1♂1♀, 25. VII. 2020, 1♂, 1. VIII. 2020, 1♂, 7. VIII. 2020, 1♀, 2. VII. 2020 筆者採集(図2-D).

本州から九州まで分布し, 食樹はブナ科のアラカシ *Quercus glauca*, クヌギ, アベマキ *Quercus variabilis* などである. 一般に確認されることはあまり多くない(石塚, 2011).

ジョナスキシタバ *Catocala jonasii*

2♂, 7. VIII. 2020, 筆者採集(図2-E).

北海道から九州まで分布し, 食樹はニレ科のケヤキ *Zelkova serrata* である. 一般に確認されることはあまり多くない(石塚, 2011).

オオシロシタバ *Catocala lara*

1♂, 9. VIII. 2021, 1♀, 10. VIII. 2021, 筆者採集(図2-F).

北海道から九州北部まで分布し, 食樹はシナノキ科のシナノキ属 *Tilia* である(石塚, 2011). 九州からの記録は少なく局所的で, 福岡県の他, 熊本県, 大分県, 長崎県の高標高地から数件の記録がある(福岡県環境部自然環境課, 2014). 熊本県での生息状況の情報が少ない種である.

ゴマシオキシタバ *Catocala nubila*

1♂, 25. VII. 2020, 1♂, 7. VIII. 2020, 1♂, 9. VIII. 2021, 2♀, 10. VIII. 2021, 筆者採集(図2-G).

北海道から九州まで分布し, 食樹はブナ科のブナ属 *Fagus* である. ブナ帯では比較的普通である(石塚, 2011).

キシタバ *Catocala patala*

1♂, 25. VII. 2020, 筆者採集(図2-H).

北海道南部から九州まで分布し, 食樹はマメ科のフジ *Wisteria floribunda* である(石塚, 2011).

謝辞

本調査を行うにあたり, 熊本野生生物研究会会員の渡邊優美氏には現地調査にご協力いただいた. 同定及び雌雄の判別に関しては北海道博物館学芸員の堀 繁久氏にご助言をいただいた. また, 合同会社フィールドリサーチの寺崎昭典氏には調査結果を発表するにあたりご助言をいただいた. ここに記して感謝申し上げる.

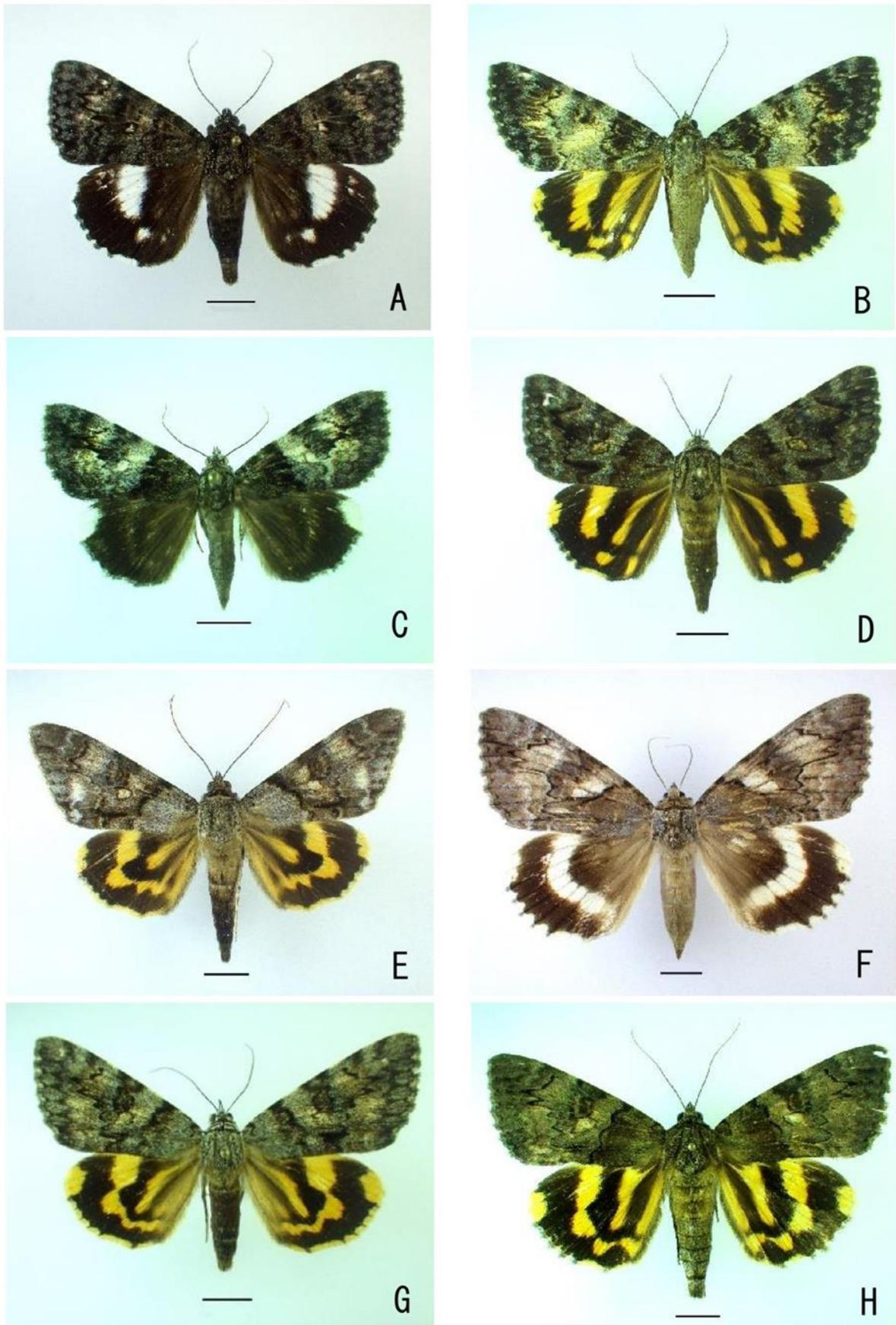


図2 A, コシロシタバ; B, ヨシノキシタバ; C, エゾシロシタバ; D, アミメキシタバ; E, ジョナスキシタバ;
F, オオシロシタバ; G, ゴマシオキシタバ; H, キシタバ
スケール: 10 mm

引用文献

- 石塚勝己. 2011. 世界のカタカラ. 有限会社むし社, 東京, 108 pp.
- 石塚勝己・岸田泰則. 2019. 日本から 32 種目のカタカラ, マホロバキシタバ. 月刊むし (584) : 7-12. 有限会社むし社, 東京, 64pp.
- 熊本県希少野生動植物検討委員会. 2019. レッドデータブックくまもと 2019—熊本県の絶滅のおそれのある野生動植物—. 熊本県環境生活部自然保護課, 熊本, 632 pp.
- 福岡県環境部自然環境課 (編). 2014. 福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック. 2014. 福岡県環境部自然環境課, 福岡, 280 pp.

受付日 : 2024 年 4 月 6 日

受理日 : 2024 年 4 月 20 日

連絡先 : 渡邊竜己 熊本市立必由館高等学校

〒860-0863 熊本県熊本市中央区坪井 4 目 15-1

✉ ryuki.watanabe06@gmail.com